

# ヒットソングにみる日本人の道徳基盤

田口靖啓\*

笹原和俊†

## 概要

多くの人に好かれる邦楽には日本人の道徳性に関わっていると考えられる。本研究では、道徳基盤辞書 (MFD) の日本語翻訳版 (J-MFD) を使用し、オリコンチャートにランクインした人気アーティストの歌詞を道徳基盤理論の観点から分析した。その結果、歌詞に反映されている道徳性は、人を守りたい・傷つけるなどの道徳性を表す「擁護」ときれい・汚いなどの道徳性を表す「純潔」の割合が多いことが分かった。また、アーティストごとにみると、道徳性に関する単語を使うアーティストほど非道徳性に関する単語も使うという正の相関関係が見られた。以上のことから、多くの人々が好んで聴く日本人の歌には、人の痛みやきれいさについて触れられる歌詞が多く、それが日本人の道徳性を反映していると考えられる。またアーティスト全体で見ると、歌詞の中で道徳性と非道徳性のバランスをとる傾向があることがわかった。

## 1 はじめに

「歌は世につれ、世は歌につれ」ということわざがある。その時代の歌は世情を反映し、世のありさまも歌の流行に影響されるという意味である。そのため、多くの人に好かれる歌の歌詞には、人々の道徳性が色濃く反映すると考えられる。また、歌は人々に聞いてもらうことが前提で作られており、限られた字数で共感を生み出すために適切な単語の選択が行われていると考えられる。以上の理由から、歌詞は人々の道徳性を定量的に研究する格好の素材だと言える。本研究では、ヒットソングの日本語歌詞を対象とし、テキストマイニングの手法を用いて、日本人の道徳性について調査した。

道徳性を調べるにあたり、道徳基盤理論 (Moral Foundations Theory; 以下、MFT と略す) をベースとした [1]。MFT は Jonathan Haidt が提唱した道徳理論である。この理論によると、人間の道徳性は、直感的な判断を可能にする 5 つの生得的基盤「擁護 (Harm)、公正 (Fairness)、忠誠 (Ingroup)、権威 (Authority)、純潔 (Purity)」で構成され、道徳の多様性はこれらの基盤の組み合わせにより決定される。各道徳基盤には、その基盤を遵守する場合 (Virtue) とその基盤に違反する場合 (Vice) の 2 通りがあり、本研では区別して分析する。

- 擁護 (Harm) : 弱者を守りたいと思う生得的感覚
- 公正 (Fairness) : 他人に付け込まれないようにすべしという生得的感覚
- 忠誠 (Ingroup) : 内集団をつくり、維持しようという生得的感覚
- 権威 (Authority) : 階級や地位などを遵守すべきという生得的感覚
- 純潔 (Purity) : 理屈なしで汚してはいけないものがあるという生得的感覚

本研究では、これらの道徳基盤の多様性を日本語歌詞のテキストマイニングによって定量化する。

---

\* 愛知大学文学部, 1414104@moon.aichi-u.ac.jp

† 名古屋大学大学院情報学研究科, JST さきがけ, sasahara@nagoya-u.jp

## 2 方法

### 2.1 歌詞データ

2004～2016年のオリコン・シングルランキング1位～100位に掲載されているアーティストを対象として、歌詞サイトの歌ネットから歌詞のテキストデータを取得した(対象となったアーティスト数は337名)。ただし、歌ネットのデータベースに存在しない曲は取得できなかった。実際に取得できたデータは、上記期間のシングルが937曲、歌ネットに存在する上記アーティストの歌(シングル以外も含む)が23963曲である。オリコン・シングルランキングの100位以内の歌に着目したのは、それらは多くの人々に支持された歌であり、したがって、人々の道徳性をより強く反映していると考えたからである。

### 2.2 道徳基盤辞書

日本語歌詞から道徳性を計測するために、道徳基盤辞書の日本語版 J-MFD を作成した。J-MFD の作成手順の詳細は文献 [3] で発表予定である。J-MFD には、道徳基盤理論の5つの基盤およびそれらの道徳基盤と関係する741の単語が登録されている。また、それらの単語が各基盤を遵守するのか (Virtue) あるは違反するのか (Vice) という区別もされており、簡単化のために、本論文では前者を「道徳的」、後者を「非道徳的」と呼ぶ。例えば、「平和\*」は「擁護遵守」(HarmVirtue) に分類され、「平和」や「平和な」や「平和主義」などがこれに該当する。また、「殺人\*」は「擁護違反」(HarmVice) に分類され、「殺人」や「殺人犯」や「殺人事件」などがこれに該当する。

### 2.3 歌詞のテキスト分析

道徳性を定量化するために、歌詞のテキストデータに含まれる J-MFD の道徳単語の数を数え、歌詞の全単語数に占める割合を計算する。まず最初に、歌詞を日本語形態素解析システム MeCab で分かち書き処理をした。分かち書き処理の後、辞書内の道徳単語を歌詞のテキストデータの中で検索して、各道徳基盤ごとに分類した。辞書内の道徳単語に\*が付いているものは活用の違いも考慮してカウントし、\*が付いていなければそのままカウントした。例えば、「共感\*」の場合、形態素解析後の歌詞に含まれる「共感」や「共感性」や「共感する」などがカウントされ、「守る」の場合は、形態素解析後の歌詞に含まれる「守る」だけがカウントされる。J-MFD に含まれる道徳単語はカテゴリーごとに偏りがあるので、「歌詞の中で検出された道徳単語の数 / その道徳単語の属するカテゴリーのサイズ / 歌詞の総単語数」とすることで、計測した値を正規化した。

以上の道徳性の計測に基づき、日本語歌詞における各道徳基盤の割合、アーティスト別に見たときの道徳性 (Virtue) と非道徳性 (Vice) の関係などについて調査した。

## 3 結果

図1は、歌詞データ全体において、道徳性 (Virtue) と非道徳性 (Vice) に関する単語が使用される割合を各道徳基盤ごとに表している。ここから、邦楽の歌詞では、全体的に道徳性 (Virtue) に関係する単語の方が非道徳性に関係する単語よりも多く使われていることが分かる。道徳性 (Virtue) で最も割合が大きかった基盤は、「擁護」(Harm Virtue) であった。以降は、「純潔」(Purity Virtue)、「公正」(Fairness Virtue)、「忠誠」(Ingroup Virtue)

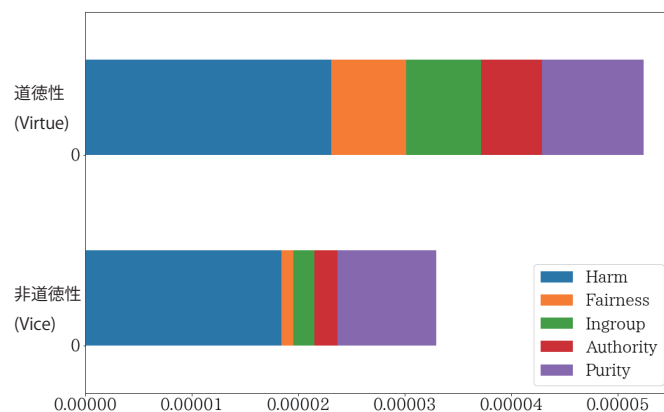


図1 歌詞全体における道徳性 (Virtue) と非道徳性 (Vice) の割合

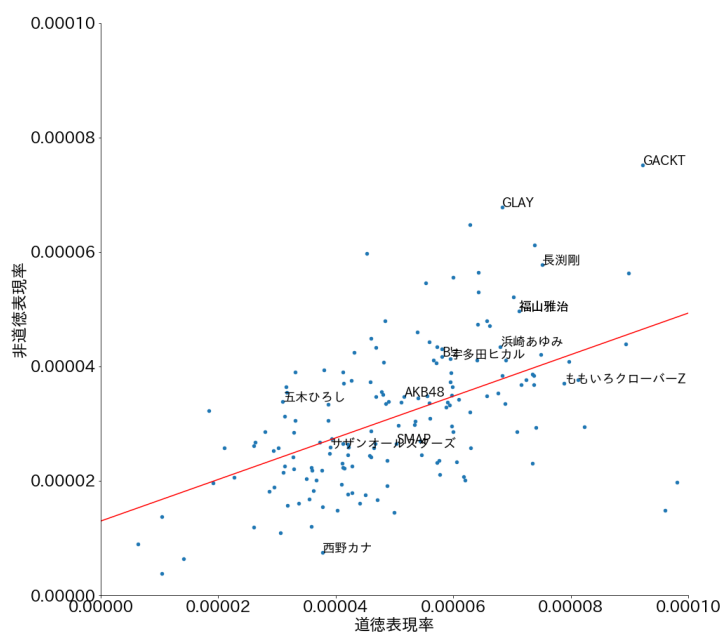


図2 アーティストの道徳表現率と非道徳表現率

と続き、最も割合の小さかった基盤は「権威」(Authority Virtue) だった。一方、非道徳性 (Vice) で最も割合が大きかった基盤は、「擁護違反」(Harm Vice) で、それ以降は、「純潔違反」(Purity Vice), 「忠誠違反」(Ingroup Vice), 「権威違反」(Authority Vice), 「公正違反」(Fairness Vice) の順であった。どちらの場合も、日本語歌詞において「擁護」と「純潔」に関わる単語が頻繁に用いられていることがわかる。

同様の道徳性の計測をジャンルごとにも行った (図は省略)。オリコンチャート 100 位以内の曲のみを対象

とすると、ジャンルがポップに著しく偏るため、オリコンチャート 100 位以内に入ったことのあるアーティストの様々なジャンルの曲を可能な限り前述の方法で取得し (23963 曲), それを分析した。その結果, 最も道徳性 (virtue) が高いジャンルは, アニメ (Animation) で, 最も道徳性 (virtue) が低いジャンルは歌謡曲および演歌 (Kayokyoku Enka) だった。また, アジアン・ピップホップ / ラップ (Asian Hip Hop/Rap) 以外のジャンルは, 「擁護」 (Harm Virtue) と「純潔」 (Purity Virtue) が多くを占めていた。

歌詞全体における道徳性 (Virtue) の単語を使用する割合を「道徳表現率」, 非道徳性 (Vice) の単語を使用する割合を「非道徳表現率」とし, 前者を X 軸, 後者を Y 軸とした時のアーティストの散布図が図 2 である。ここから, 道徳表現率と非道徳表現率のどちらも高いアーティストが Gackt, どちらも低いアーティストは西野カナであることがわかる。さらに, 道徳表現率が高いほど非道徳表現率も高いという正の相関が認められた ( $r = 0.51, p < 0.001$ , ピアソンの無相関検定)。

## 4 まとめ

本研究では, 人気のあるアーティストの曲の歌詞のテキストデータを道徳基盤辞書の日本語版 (J-MFD) を用いて分析した。オリコンチャートで 100 位以内にランクインしたアーティストのシングルの歌詞のテキスト分析からは, 擁護 (Harm) の割合が最も多く, 次いで純潔 (Purity) が多く日本語歌詞に表現されていることがわかった。先行研究において, 日本語においても英語においても, Twitter の投稿データでは, 擁護 (Harm) が一番使われる道徳基盤であることが知られている [2, 3]。このことから, 擁護は道徳基盤の中でもっとも中心的な基盤である可能性が示唆される。

アーティストごとの分析からは, 道徳性と非道徳性に関する単語の使用には正の相関があることが明らかになった。これは言い換えると, 道徳的な単語を多用するアーティストは, 非道徳的な単語もたくさん使用する傾向があるということである。これと関係する仮説に, モラル・ライセンシングという考え方がある [4]。この仮説を簡潔に言うと, 「良いことをすると, 悪いことをしたくなる」傾向のことである。まだ憶測の域を出ないが, 歌の場合も, 道徳的な意味で良い歌詞をたくさん書くと, その分, 非道徳的な歌詞を書きたくなり, 道徳的なバランスをとる傾向があるのかもしれない。この仮説については, 英語の歌詞との比較などを行い, さらに検証を行う必要がある。

以上のことから, 日本語歌詞は, 擁護 (Harm) と純潔 (Purity) の性質が強く, そこには人を守りたい, きれいなものをきれいだと思う日本人の道徳性が反映されていると考えられる。また, 一人のアーティストが道徳的な歌だけを歌うということあまりなく, そのアーティストは非道徳的な歌も歌う傾向があった。つまり, アーティストは歌詞の中で道徳性と非道徳性のバランスをとる傾向があることが示唆された。今後は, 英語の歌詞も同様に分析して比較し, これらの結果の文化依存性について調査する予定である。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 (JP15H03446, JP17H06383JST), JST さきがけ (JPMJPR16D6), JST CREST (JPMJCR17A4) の助成を受けたものです。

## 参考文献

- [1] Jesse Graham, Jonathan Haidt, Sena Koleva, Matt Motyl, Ravi Iyer, Sean P Wojcik, and Peter H Ditto. Moral foundations theory: The pragmatic validity of moral pluralism. In *Advances in experimental social psychology*, volume 47, pages 55–130. Elsevier, 2013.
- [2] Rishemjit Kaur and Kazutoshi Sasahara. Quantifying moral foundations from various topics on twitter conversations. In *Big Data (Big Data), 2016 IEEE International Conference on*, pages 2505–2512. IEEE, 2016.
- [3] Sasahara K. Taguchi Y. Matsuo, A. and M. Karasawa. Development of the japanese moral foundations dictionary(in prep.). 2017.
- [4] Anna C Merritt, Daniel A Effron, and Benoît Monin. Moral self-licensing: When being good frees us to be bad. *Social and personality psychology compass*, 4(5):344–357, 2010.